

## つなぎ牛舎では人が給与した量がその牛の最大乾物摂取量となる

搾乳牛の乾物摂取量を考える場合、放し飼い飼養牛舎では、バンクスコアという手法があります。朝の飼槽の TMR の残り具合状況を見て、給与量が充分かどうか適正かどうかを判断する指標です。ではつなぎ牛舎ではどの様に判断すれば良いのでしょうか？

全く残飼がない朝の飼槽  
もっと餌の量を増やす



残飼が多いが、牛の首が届かず採食できない  
飼槽構造と餌寄せ頻度が問題



つなぎ牛舎では、乳牛の目の前にある TMR は、あっても両隣から少量食べられるだけで、基本的には自分専用の餌になります。他の牛から取られる心配が無いので、安心して食べられます。その結果、TMR を全部食べきる前の採食途中で反芻を始めてしまいます。これを酪農家が見て、我が家の牛はお腹いっぱい反芻しているので、これ以上給与する必要は無いと判断すると、乾物摂取量は次第に低下します。外見上お腹が巻いた乳牛となり、人が牛舎に入ると立ち上がり、餌をくれというような顔で人を眺めるようになります。反芻を始めても、飼槽に残った TMR は最終的には食べてしまいます。

つなぎ飼養の牛舎では、人が給与した TMR 量が牛の最大乾物摂取量になります。人が TMR 量を少ないとか多いとかの判断基準が、直接牛の採食量に大きく影響し、乳量を左右します。飼槽に TMR が残るように給与するのが基本です。TMR が多く残ってしまった部分は、少ないところに移動して採食させましょう。

朝の飼槽の写真：残飼がなく掃除はしやすいが、牛の採食量が低いままである。酪農家の感覚(カウセンス)が大きく影響する事柄である。

乳牛のルーメンスコアを参考にしながら、TMR 給与量を調整してみることも一考です。

